

すばる望遠鏡 学生PI現地観測プログラム特集			
巻頭言	プログラム実施にあたって	宮崎聡	244
	化学特異星の近赤外線高分散分光観測と中性子星合体からの 電磁波放射への応用	土本菜々恵	246
	すばる望遠鏡で探るビッグバン元素合成時のヘリウム量	松本明訓	252
	はやぶさ2拡張ミッション探査先小惑星 1998 KY ₂₆ の 可視分光および偏光観測	紅山仁	259
	ホットジュピターの最期を追った掩蔽観測	河合優悟	264
	すばる望遠鏡の現地観測を通じて学んだこと	鈴木善久	272
シリーズ：海外の研究室から			
	海外で研究する，という選択肢—NASA での6年間— Catholic University of America	村松はるか	277
雑報	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>39th Internatinal Cosmic Ray Conference (ICRC2025)</i>	横山将汰	281
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>Solar Polarization Workshop 11 (SPW11)</i>	山崎大輝	282
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>TeV Particle Astrophysics 2025 (TeVPA2025)</i>	坂井延行	284
	日本天文学会早川幸男基金による渡航報告書 <i>Dusty Universe 2025</i>	妹尾梨子	285
書評	理科年表 2026	日下部展彦	288
月報だより			289

【表紙画像説明】

「すばる望遠鏡学生PI現地観測プログラム」は、学生主導の観測提案が採択された際、すばる望遠鏡のあるハワイ現地への渡航を支援する制度である。データ生成の現場を肌で学ぶ経験は、将来の研究者育成において極めて重要である。本特集で紹介する参加学生たちの手記からも、現場での感動が研究の理解を深める一助となっていることが見て取れると思う。運用予算が厳しい中、学生を迎え入れる努力を惜しまない現場職員の尽力に深く感謝したい。なお、観測チームの背後にそびえたつのがすばる望遠鏡本体である。

【今月の表紙デザイン】

今月は「細い月とプレアデス星団（すばる）の接近」をモチーフにしました。細い月は適度に暗いため、すばるの光がかき消えることなく双方を観察することができます。条件が良ければ、肉眼でも見えるとのこと。見えたらラッキー！ 乾杯です。